いずみさの教育NOW

問合先
学校教育課

拡大教科書について～教育の機会均等～

みなさんは、拡大教科書をご存知ですか。拡大教科書とは、弱視児童生徒のために検定済み教科書の文字や図形を拡大するなどして複製したものです。

本市では、平成11年に、ある小学校の弱視の児童の教科書を作る目的で「泉佐野拡大写本グループ」が生まれました。拡大教科書は、単に文字などを拡大するだけではなく、一人ひとりの見え方に合わせて書体、字のサイズ、字間、行間、背景、色など時間をかけて丁寧に手作りで製作していきます。1人の児童のために始まったボランティアグループの活動は、その後ネットワークのなかで、他府県からも依頼が届くようになりました。ボランティアスタッフは、拡大教科書を望んでいる子どもがたとえ遠方であっても、製作にかかる前から電話や手紙で、見え方や要望などを丁寧に聞き取り、その子どもにあった教科書をつくるための作業をすすめてきました。

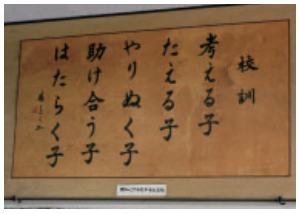
こういった献身的なボランティア活動や、国への地道な要望が全国各地で広まり、それまで教科書の位置づけのなかった拡大教科書は、平成16年から無償給与されるようになりました。

さらに平成20年に「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」が制定され、教科書発行者に対して、弱視児童生徒のニーズに対応した標準的な規格に基づく拡大教科書を発行する努力義務が規定されました。このことから、教科書発行者による拡大教科書の発行数は少しずつ増えていき、平成24年以降の小・中学校教科書全面改訂時より、すべての教科書に対応する拡大教科書が発行されるようになりました。現在では本市小・中学校において、多くの児童生徒が自分の見え方に合わせた拡大教科書で学習をしています。

今後も必要とする児童生徒が適切な教科書を使用することができるよう、確実な給付をすすめていきます。拡大教科書についての質問や相談などがありましたら、各学校および学校教育課まで問い合わせてください。

学校園紹介

日根小スタンダード ～日根野小学校～



本校の校訓「考える子 たえる子 やりぬく子 助け合う子 はたらく子」は、現在も「めざす子ども像」として本校の教育の礎となり脈々と受け継がれています。今年度は、本校の教育方針の原点に立ち戻りました。そこで、5つのめざす子ども像について、「考える子」は周りに流されず正しく判断できる子、「たえる子」は何度もチャレンジして苦手を克服することのできる子、「やりぬく子」は立てた計画を最後までやりきることのできる子、「助け合う子」は友だちの立場や考えを受け入れることのできる子、「はたらく子」は自分の役割や担当に責任をもって行動できる子というように、子どもたちにわかりやすい言葉に置き換え、その実現のための目標を決め、「日根小スタンダード」として、ほめるポイントを示しました。

成長を促す指導を貫くことで、「仲間づくり」「集団づくり」に反映され、お互いを尊重し合える関係性が育まれると考えます。みんなで考えた「ひねのん」の応援ももらいながら、これからも子どもたちの健やかな成長のために努めていきます。

◀日根野小学校公式キャラクター「ひねのん」

自分も仲間も大切にする子どもの育成をめざして ～日新小学校～

心豊かな子どもたちへと成長できるように、本校ではさまざまなとりくみを行っています。その様子を一部ですが紹介します。

【日新文化祭】2学期の図工の時間に作成した作品を体育館に展示し、互いに鑑賞しました。日曜参観に合わせて開催し、保護者にも見ていただきました。1年生は、学年全員で協力して大きな水族館を作成し、その中で一人ひとりが作成した魚が所狭しと泳いでいました。5年生は、泉佐野漁港に写生に行った時の作品を展示しました。泉佐野漁港で観て、感じたことが作品に込められていました。子どもたちの作品どれもが力作ぞろいで、子どもたち一人ひとりの個性が作品に表現されていました。

【人権講演会】コロナ禍の影響もあり、3年ぶりの開催となりました。保護者とともに、子どもたちも一緒にお話を聴かせていただきました。今年度は、盲導犬ユーザーを講師に招き、盲導犬がやってきて外出することが楽しくなったこと、料理などの家事ができるようになったこと、また、街中で盲導犬ユーザーに出会ったときに気をつけてほしいことなどのお話がありました。

どちらのとりくみも、子どもたちにとって新たな気づきの多い機会となりました。これからもこのようなとりくみを通して、相手を思いやる心の育成に努めていきます。